

地域住民による高齢者の見守りと生活支援について

提言①

老人クラブの活性化について

舞鶴市老人クラブ連合会では、高齢者一人ひとりの生きがいの充実を基盤に、地域の老人クラブ間の交流、情報交換の場として主催する行事や友愛訪問等の地域での支え合い活動に取り組んでおり、高齢者の見守りと生活支援については老人クラブに期待されるところが大きい。

しかしながら、加入クラブ数と会員数は、ともに減少傾向にあるため、サロンやサークル活動など類似クラブとの関係性の整理、補助金制度の在り方、老人クラブの運営に関する市との連携、リーダーとなる人材の育成、老人クラブの組織改革など、課題となっている事項の解決策を検討し、老人クラブの活性化に対する支援を図られたい。

【現状と課題】

今後、さらに高齢化が進み、介護サービス利用者の増加が予測されることから、高齢者が安心して住み慣れた地域や自宅で、その人らしい生活を送ることができる環境を整えるためには、地域住民による見守りと生活支援が必要であり、地域共生社会の実現に向けた取組を進めることが重要となる。

しかしながら、地域コミュニティは年々希薄になり、自治会のような地縁組織で取り組もうとする場合、他人の世話をしてくれる人を集めるのが難しく、支援組織を新しくつくろうとする場合、リーダーとなる人材が必要になる。

老人クラブは、高齢者同士の見守りや生活支援が活動目的に入っており、老人クラブの活動をしっかりしたものにしていくことが、最も効率的で現実的であると考えられる。

【効果】

現役世代に負担をかけることに負い目を感じている高齢者が多いため、高齢者同士がお互いに支援し合う環境が整えば、高齢者自身が気兼ねなく安心して住み慣れた地域や自宅で、その人らしい生活を送ることができるものと思われる。老人クラブが活性化し、地域の高齢者同士がお互いに支援し合う環境を自らつくり上げることができれば、その目的達成に大きな成果が得られるものと思われる。

提言②

重層的支援体制の整備について

今後、さらに高齢化が進み支援を必要とする高齢者の増加が見込まれており、住み慣れた地域や自宅で、その人らしい生活を送ることができるよう「地域包括ケアシステム」の推進が求められている。また、本市は、令和元年に内閣府の「SDGs未来都市」に選定されており、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」という視点で取り組んでいる。全ての高齢者に対して、見守りと生活支援を行き渡らせる環境を整えるためには、互助に加え、共助、公助による支援体制の構築が必要であることから、現体制の検証を行い、本市にふさわしい重層的支援体制の整備を進められたい。

【現状と課題】

本市は、「重層的支援体制整備」が先の国会において新たな事業として位置付けられたことを踏まえ、新たな多機関連携体制を構築するためのネットワーク会議を組織し、まずは現状を洗い直し、出てきた課題を精査し、地域共生社会の実現を目指した、本市に最もふさわしい重層的支援体制の整備を進めることとしている。他市の例を見ると地域、学校区、市のような三層構造による地域福祉のネットワークを構築しているところが多いようであるが、その中心となっているのは小学校区単位に配員されている「生活支援コーディネーター」であり、本市にも城北地域の地域包括支援センターに1人配員されている。

また、社会福祉協議会に地域福祉事業専任者が配員され、地域の生活支援に関する課題を地域と一緒に解決しているところもある。本市の社会福祉協議会における地域福祉事業は兼務により実施されているところであり、地域福祉事業に充てられる時間は限定的である。

【効果】

老人クラブの活動は地域によってまちまちであり、活動内容が必ずしも居住地域全域に行き届いているとは言い難く、老人クラブが存在しない地域もある。中にはサークル活動の仲間同士で支援し合っているところもあり、どのような組織が地域に存在し、どのような支援体制ができているかは市の高齢者福祉担当部署や民生委員、地域包括支援センター職員などの市の委託を受けた福祉関係者によって調査確認される必要がある。老人クラブによる互助に加え、地域住民による共助、市による公助の重層的支援体制が確立すれば、誰一人取り残さないという目的の達成率は高くなるものと期待される。